

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

様式1(小・中)

学校名	唐津市立佐志中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>「佐志中学校に入学してよかった」に肯定的な回答は生徒95%、保護者91%であった。今年度も生徒・保護者ともに90%を超えることを目指す。</li> <li>校内研での全員公開授業等、職員一丸となって学力向上に向け授業改善に取り組んだものの、各教科において十分な基礎・基本の定着までは至らなかった。現状をしっかりと分析し、学力向上に向けさらに研究を推進していく。</li> <li>スマホの利用時間の長さは全国調査の結果からもうかがえ、家庭学習の充実にも影響を与えていると思われる。「スマホの利用時間2時間以内、睡眠時間7時間以上」についてのアンケート結果は生徒57%、保護者40%と依然低く、スマホ利用に対する生徒の意識改善と家庭との連携強化を図ることで、スマホ利用時間の縮減と望ましい生活習慣の形成を目指す。</li> <li>教師による回答では、業務改善・働き方改革に対する肯定的な回答が94%と昨年を大きく上回った。今後も改善する余地や可能性のある業務を洗い出し、一層の改善を推進する。</li> </ul>
2 学校教育目標	確かな学力を身につけ、健康で心豊かで、生きる力を持つ生徒の育成 - 主体性の発揮-
3 本年度の重点目標	(1) 学習指導の充実 (2) 人権・同和教育の実践と生徒指導の充実 (3) 開かれた学校づくり

4 重点取組内容・成果指標

重点取組			中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○意欲的に学習に臨む生徒の育成を図る	○話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた。回答した生徒を80%以上にする。 ○授業に一生懸命に取り組んでいる生徒を85%以上にする。	B	・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、全教科半分以上の授業で「話し合い活動」を設定する。 ・「振り返り」を確実に設定する。	A	・話し合い活動を行う機会が多くなってきたが、まだ50%までは達成できていない。 ・「振り返り」は多くの授業で行われている。	B	日ごろの先生方の授業力向上に対する研修には感謝します。今後もコーディネーターを中心にさらに学力向上に努めてほしい。	研究主任	
	○家庭学習の習慣化	○毎日家庭学習に取り組む生徒を80%以上にする	B	・教材研究として授業と関連した課題の作成に取り組む。	B	・家庭学習の取り組みについては、教科ごとに授業と関連した課題に取り組めるように工夫し、提出の呼びかけを行っているが、80%以上にするには、改善が必要である。 ・タブレットを利用した課題のありかたについて、さらに改善する必要がある。	B	アンケートの結果からも、最重要課題だと思います。現在の取り組みに加えて、家庭学習においてもタブレットPCなどの活用を推進を図り、習慣化につなげないか。	研究主任	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳性についてのアンケートで肯定的な回答をした生徒と保護者の割合をそれぞれ85%以上にする。	B	・平和や人権についての意識を高めるための授業や掲示に取り組む。 ・道徳の授業や生徒会活動による心の教育活動について学級通信などを通して保護者に発信する。	A	・人権・同和教育推進委員の提案で、人権について考えさせる道徳の授業を全校一斉に行なった。 ・道徳の研究授業を実施し、全職員で生徒の実態に合わせた道徳の授業の実践について検討することができた。 ・保護者や地域の方に開かれた、ふれあい道徳を実施した。 ・学校だよりや学級通信などを通して、授業での生徒の感想などを学級通信などを通して保護者に発信した。	A	「学校評価アンケートの結果では「道徳の授業などを通して豊かな心が育っている」という質問に対し、生徒の98%が肯定的な回答をしており、ほとんどの生徒が道徳的な見方・考え方を学んだことを意識できている。ただし保護者は83%と前年度より1%減少しており、学級通信などを通して道徳教育の実践の保護者への周知と、継続して道徳の授業を行い、多様な考えや思いがあることを知り、自分自身に照らし合わせながら道徳的価値観を高められるような授業改善を進める必要がある。	道徳主任	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめアンケートで、学校の取組に肯定的な回答をした生徒・保護者の割合をそれぞれ85%以上にする。	B	・毎月心のアンケートを全生徒対象に実施する。 ・生徒指導部会(週1回)と生徒指導協議会(月1回)を通し、全職員で生徒に関する情報の共有と関わり方を検討する。	B	・毎月実施している心のアンケートでは、学校生活に対し「○○が楽しかった」「○○が嬉しかった」などの肯定的な回答が多く見れた。しかし、各クラス2名は悩んでいることや嫌な思いをしたことについて記述していたが、いじめやそれにつながるような事柄についてはすばやく対応することができた。 ・いじめアンケートでは94%の生徒、保護者が学校の取組に肯定的な回答をしており、昨年度の84%の結果を上回っている。 ・今後も現在の取組を継続していき、職員間での密な情報共有を行って組織的な対応をしていきたい。	B	いじめ報告が多いのが気になるが、早期発見、組織的な早期対応で大事に至らないよう取り組んでいることは評価する。今後とも生徒の些細なサインを見逃さず、進めてもらいたい。	生徒指導	
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●◎「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒60%以上	B	・授業や学校行事等で、生徒の意見を取り入れたり、生徒が主体的に活動したりする場面を設定し、学級等で承認する場をもつ。 ・就職や資格取得に関するリーフレット等を用いた進路学習を、全学年において実施する。	A	・2年生を対象に、8月末にかけて職場体験学習を行った。 ・6月に3年生、9月に2、3年生を対象にした高校説明会を行った。 ・将来の夢や希望する職業を持つ生徒は、6月時点の第1回意識調査で74%であった。そのうち1年生は89%に対し、2、3年生の割合が6~7割にとどまっており、特に2年生は職場体験学習を通しての姿勢が見られたが、第2回意識調査で測りたい。	B	・6月、11月、2月に実施した生徒対象の意識調査では、将来の夢や希望する職業を持つ生徒が最終的に全学年で70%以上いた。特に2年生は職場体験、高校説明会を終えた直後の11月の調査では72%が肯定的な回答をしており、キャリア教育の成果が出たと考えられる。 ・同意意識調査にて、計画を立てて勉強をしている生徒の割合は11月で落ち込んでおり、将来の進路と現在の学習の関連を意識づけようとする取り組みが必要と思われる。	B	アンケート結果からも、今後も重点課題の一つとして「将来の夢や希望に向かって努力することの大切さ」について、家庭や地域と協力して夢や希望をもち努力する生徒を育成してほしい。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」児童生徒70%以上 ○朝食をとって登校する児童生徒80%以上	A	・朝食の効果について、保健だよりや給食時間の放送を通して啓発を行う。 ・食育週間等に生徒に対し朝食に関するアンケートを取り、大切さを知らせいく。	A	・保体給食委員で11月に「生活習慣チェック」を実施。その中の朝食喫食率は96%であった。成果目標の80%を上回る結果となった。 ・今後も、朝食の効果や食事の重要性について、保体給食委員の活動及び保健だよりの活用等を通して情報を提供していきたい。	A	朝食の効果についての啓発とあわせて、摂取率を100%に近づけて欲しい。それが学力向上につながると思う。	食育	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	B	・会議等のペーパーレス化を推進し、会議等の効率化を図る。 ・部活動休養日の設定を徹底する。 ・部活動休養日を定時退勤日とする。	B	・具体的取り組みについてはほぼ達成できているが、定時退勤についてはまだまだ、達成できていない。また、働き方改革の推進への肯定的な評価は高いとは言えない状況である。昼休みが取れないことや、放課後の部活動の事務等での残業が全く改善されない。引き続き改善する余地や可能性のある業務を、さらに検討を重ね、実践することで、一層の改善を推進する。	B	業務の中、様々な取組がなされ感謝している。教職員の負担軽減を図るには行政の支援が必要であることは承知している。部活動の社会体育移行にも期待したい。	教頭	

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○SDG'sの推進	○全教科・領域において、SDG'sを意識した教育を展開する。	○3つ以上のSDG'sを意識して生活を送ることができている生徒の割合を70%以上にする。	B	・全教科・領域において、また教科横断的にSDG'sを扱う単元開発を積極的に進行。	A	・SDG'sの1、14、15の3項目を70.8%の生徒が意識して活動したと回答した。 ・英語科ではSDG'sの取り組みを理解し、英語を通じて世界を見つめなおし、考えを深めることができた。 ・生徒全体が活動内容について意識できるように生徒会で掲示し、考えを深めさせたい。	A	・校内外でのボランティア活動や募金活動を行ったが、学校評価アンケートの結果では、SDG'sの活動に積極的に参加していると回答している生徒は45%、保護者は80%であった。 ・SDG'sの取り組みを意識した活動を増やしていきたい。 ・「貧困について考えよう」の取り組みでは、「できた」と回答したのが34%、「まあまあできた」が6%であった。	生徒会

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>「佐志中学校に入学してよかった」に肯定的な回答は生徒94%、保護者87%であった。来年度も生徒・保護者ともに90%を超えることを目指す。</li> <li>研究指定校、推進校を経て、職員一丸となって学力向上に向け授業改善に取り組んだものの、各教科において十分な基礎・基本の定着までは至らなかった。現状をしっかりと分析し、学力向上に向けさらに研究を推進していく。</li> <li>スマホの利用時間の長さは全国調査の結果からもうかがえ、家庭学習の充実にも影響を与えていると思われる。「スマホの利用時間2時間以内、睡眠時間7時間以上」についてのアンケート結果は生徒58%、保護者32%と依然低く、スマホ利用に対する生徒の意識改善と家庭との連携強化を図ることで、スマホ利用時間の縮減と望ましい生活習慣の形成を目指す。</li> <li>教師による回答では、業務改善・働き方改革に対する肯定的な回答が87%と昨年を下回った。今後も改善する余地や可能性のある業務を洗い出し、一層の改善を推進する。</li> </ul>
--------------------	---